

運動処方に関する研究 —ま と め—

岡 田 敏 夫

富山医科薬科大学小児科

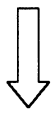
運動処方に関する研究班は、初年度にひきつづき、以下の点について検討を行った。

- I) : 小児期腎疾患患児について、その疾患別、病態別に、運動負荷による影響、反応性について検討した。
- II) : 運動に対する反応性について検討するために、従来用いられている項目や、新しい検査項目などについて検討した。
- III) : 運動量を規定するために、カロリーカウンター装着と、行動調査表による設問法との統一的処理を行った。その結果、
 - I) : IgA腎症など、とくに組織障害の強い症例においては、運動負荷により、尿中アルブミン量の増加する傾向がみられ、また、比較的組織変化の強い群において行った連続5日間の消費カロリーと、尿中成分などを比較した結果、消費カロリーの日差変動はほとんどないにもかかわらず、FENaと、尿蛋白のうち低分子蛋白の排泄量の日内変動が著明であった。
 - II) : 腎組織所見、病期を異にする小児慢性腎炎患児において、一定のなわとび負荷を行った結果、なわとび負荷は、運動許可のめやすとして用い得る可能性が示唆された。
 - III) : 小児慢性腎炎患者の日常生活運動量とCcrとの関係を調査した。日常生活運動量調査では、カロリーカウンターより生活行動調査票によるものが優れていると考えられたが、さらに改良すべき点があった。小児腎炎患者では、日常生活運動量増加により摂取蛋白量が有意に増加し、摂取蛋白量増加によりCcrが増加した。また成人腎炎患者にみられた日常生活運動量増加によるCcr低下は見られな

かった。今後さらに症例を増加して検討を行う予定である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



運動処方に関する研究

—まとめ—

岡田敏夫

富山医科薬科大学小児科

運動処方に関する研究班は、初年度にひきつづき、以下の点について検討を行った。

) : 小児期腎疾患患児について、その疾患別、病態別に、運動負荷による影響、反応性について検討した。

) : 運動に対する反応性について検討するために、従来用いられている項目や、新しい検査項目などについて検討した。

) : 運動量を規定するために、カロリーカウンター装着と、行動調査表による設問法との統一的处理を行った。その結果、

) : IgA 腎症など、とくに組織障害の強い症例においては、運動負荷により、尿中アルブミン量の増加する傾向がみられ、また、比較的組織変化の強い群において行った連続5日間の消費カロリーと、尿中成分などを比較した結果、消費カロリーの日差変動はほとんどないにもかかわらず、FENa と、尿蛋白のうち低分子蛋白の排泄量の日内変動が著明であった。

) : 腎組織所見、病期を異にする小児慢性腎炎患児において、一定のなわとび負荷を行った結果、なわとび負荷は、運動許可のめやすとして用い得る可能性が示唆された。

) : 小児慢性腎炎患者の日常生活運動量と Ccr との関係を調査した。日常生活運動量調査では、カロリーカウンターより生活行動調査票によるものが優れていると考えられたが、さらに改良すべき点があった。小児腎炎患者では、日常生活運動量増加により摂取蛋白量が有意に増加し、摂取蛋白量増加により Ccr が増加した。また成人腎炎患者にみられた日常生活運動量増加による Ccr 低下は見られな

かった。今後さらに症例を増加して検討を行う予定である。